紋別市地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

紋別市では、公共交通を取り巻く問題、課題解決のため、平成21年2月に「紋別市地域公共交通総合連携計画」を策定し、サービス水準を維持したまま、効率的で継続可能な地域交通体系の構築を目指している。

連携計画では「バス路線網の再編・公共交通空白地帯の対策の推進」に係る事業を行うこととし、その一事業として、放物線上に延びていた市内4路線を2つの循環線(北循環線・南循環線)に統合・再編し、平成23年度から本格運行を開始している。上藻別線は、少人数の需要に効率的な運行方法等として、平成24年度から一部区間を予約制により本格運行している。

上記路線は、いずれも地域間幹線系統の5路線(上渚滑線、滝上線、遠軽線、興部線、雄武線)と紋別バスターミナルを共有し、乗継の際の割引や高齢者等に対するバス料金の助成を行うなどフィーダー線と地域間幹線を一体化した公共交通ネットワークを構築している。

今後も人口減少、高齢化社会の対応に向け、なお一層の効率的で利便性が高い継続可能な公共交通の構築と確保・維持が求められている。

そのため、平成30年3月に「紋別市地域公共交通網形成計画」を策定し、まちづくりや福祉、教育、観光などと連携した面的で持続可能な公共交通網の再構築を目指すこととした。

また、商店街連携イベントを行うことで中心市街地の活性化を図り、運転免許証自主返納者へのバス券の付与等を行うことでの交通安全面への寄与など、今後も公共交通に対しての期待や利用拡大が求められている。

地域公共交通の現況

・地域間幹線系統
（上渚滑線、滝上線、遠軽線、興部線、雄武線）
・都市間バス
（紋別～旭川、紋別～札幌）
・スクールバス
（中渚滑エリア、元紋別・小向エリア、沼の上エリア、宇津々エリア、藻別エリア、上渚滑エリア、中立牛エリア）

協議会開催状況

①令和2年6月　令和2年度第1回協議会（書面）
・R1年度事業、決算報告、R2年度事業計画（案）、予算（案）
②令和2年7月　令和2年度第2回協議会（書面）
・R3年度フィーダー計画について
③令和3年1月　令和2年度第3回協議会（書面）
・地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について 他
④令和3年6月　令和3年度第1回協議会（書面）
・R2年度事業、決算報告、R3年度事業計画（案）、予算（案）
・R3年度フィーダー計画の変更について
・R4年度フィーダー計画について
⑤令和4年1月　令和3年度第2回協議会
・地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について 他

生活交通確保維持改善計画の目標

○フィーダー系統路線目標値
1　南循環線目標値（利用者数）　57.3人／日
2　北循環線目標値（利用者数）　58.0人／日
3　上藻別デマンド線（利用者数）　6.4人／日

○商店街連携イベント目標値
1　商店街参加店舗数　50店舗
2　商店街利用券数　1,500枚
3　バス利用者参加者数　800人

○車両取得目標値
令和2年度南北循環線の利用者数より1％以上増加

令和３年度事業概要

○市内循環線　～（1乗車/210円）
・南循環線(紋別高校～紋別BT～紋別高校)　【運行日数　364日/運行回数　4,716回】
・南循環線②(紋別高校～紋別BT～広域紋別病院北口～紋別高校)　【運行日数　242日/運行回数　244回】
・北循環線(サッポロDS前～紋別BT～サッポロDS前)　【運行日数　364日/運行回数　4,716回】
・北循環線②(サッポロDS前～紋別BT～紋別高校)／北循環線③(紋別BT～大日寺前～サッポロDS前)【運行日数　242日/運行回数　122回】

○上藻別デマンド線（駅逓～公住前～元紋別～南が丘4～紋別BT）　※駅逓～公住前はデマンド区間　【運行日数　364日/運行回数　1,334回】
（1乗車/南が丘4～紋別BT　210円/元紋別～紋別BT　310円/駅逓～紋別BT　520円）

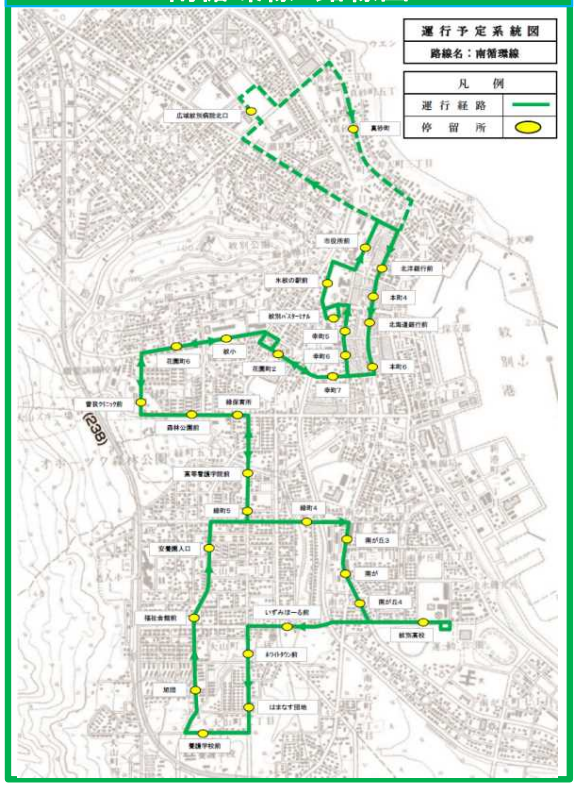
令和３年度事業の実施状況

１）プロセス、創意工夫

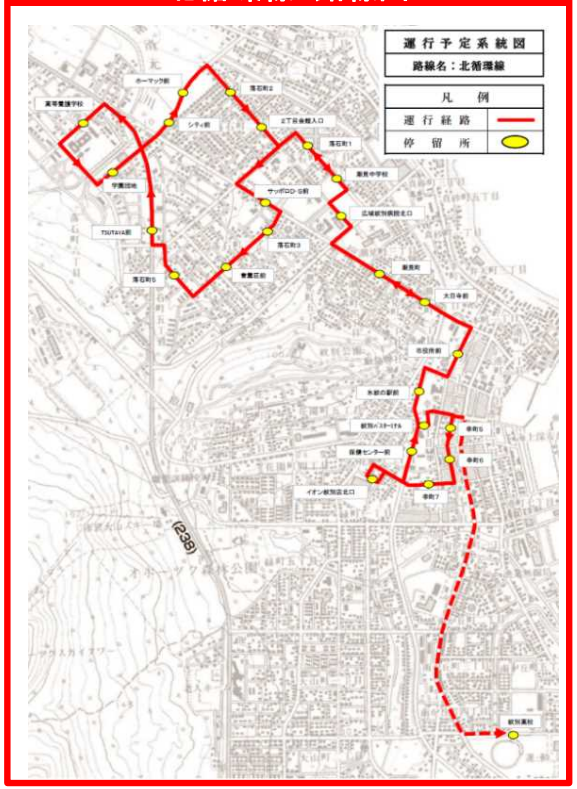
・平成31年4月より通学距離が6km以上に限っていた紋別高等学校生徒に対する定期券購入費補助を全生徒に対象を拡大し、定期券購入費の半額を補助することにより通学支援と利用者の増加を図った。
・平成31年4月より外国人技能実習生に対し「バス乗車証」を交付し、１乗車につき100円でバス利用できる運賃助成を実施することにより、日常生活の支援と新たなバス利用者の開拓を図った。
・「バスの乗り方教室」（市民組織「乗ろうよバスの会」主催、当協議会後援）を実施し、参加者にバスの利用方法等を学んでもらい、利用促進を図った。
・運転免許証を自主返納された方用に割安定期券の販売を実施したほか、会員特典としてバス券1,200円分が付与される「乗ろうよバスの会」 の入会金を初年度のみ当協議会が負担し、新規バス利用者の獲得に努めた。

２）運行系統

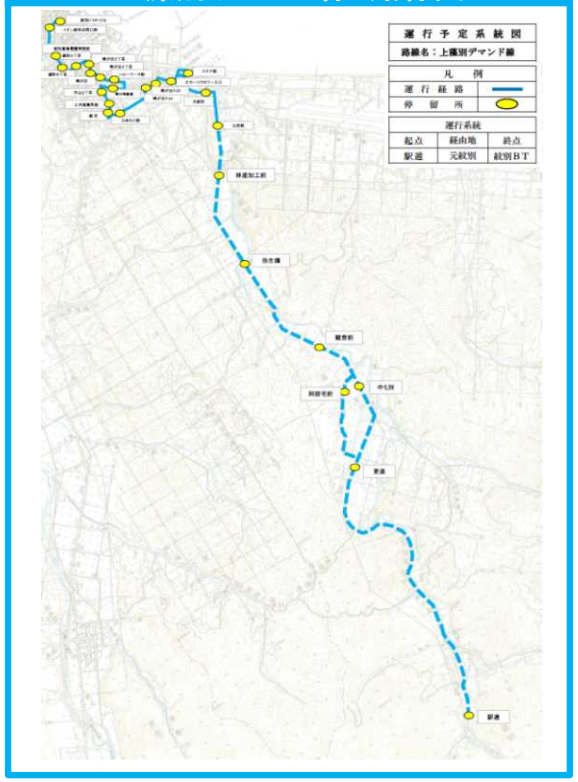
南循環線　路線図



北循環線　路線図

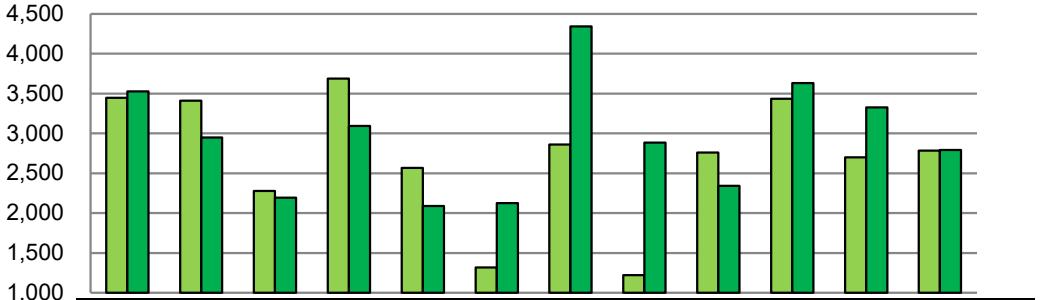


上藻別デマンド線　路線図



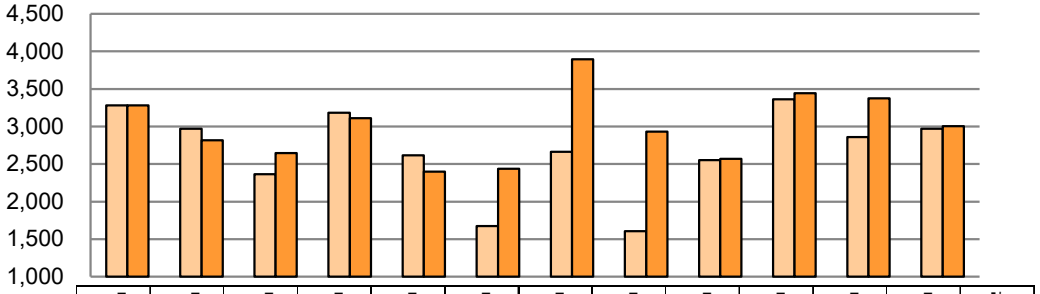
３）利用実績

南循環線月別利用実績（人）



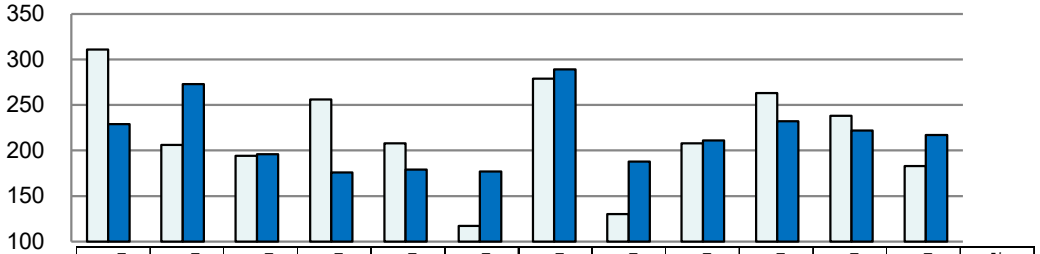
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
R2	3,445	3,409	2,279	3,685	2,568	1,319	2,861	1,223	2,761	3,434	2,700	2,783	32,467
R3	3,526	2,947	2,191	3,092	2,088	2,124	4,342	2,882	2,340	3,630	3,325	2,793	35,280

北循環線月別利用実績（人）



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
R2	3,280	2,968	2,365	3,182	2,615	1,676	2,665	1,607	2,553	3,362	2,858	2,970	32,101
R3	3,281	2,816	2,646	3,110	2,399	2,439	3,894	2,932	2,568	3,443	3,376	3,006	35,910

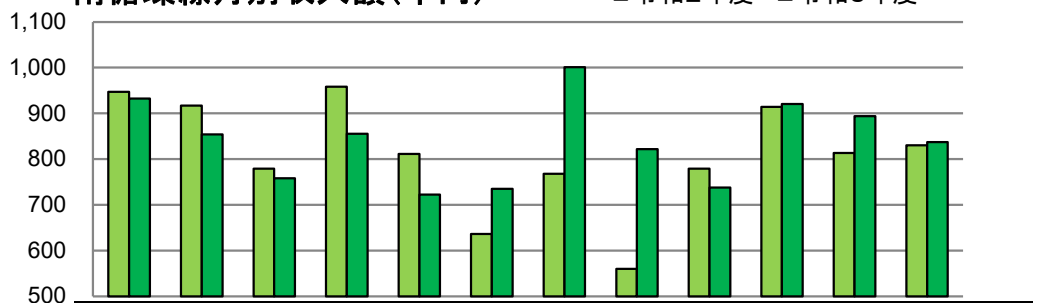
上藻別デマンド線月別利用実績（人）



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
R2	311	206	194	256	208	117	279	130	208	263	238	183	2,593
R3	229	273	196	176	179	177	289	188	211	232	222	217	2,589

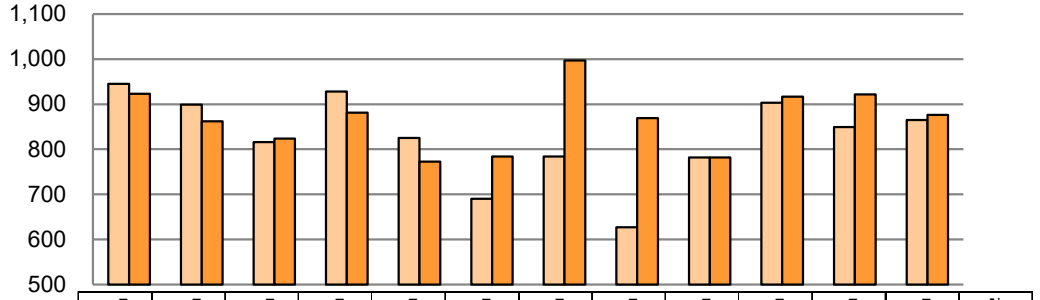
４）収入実績

南循環線月別収入額（千円）



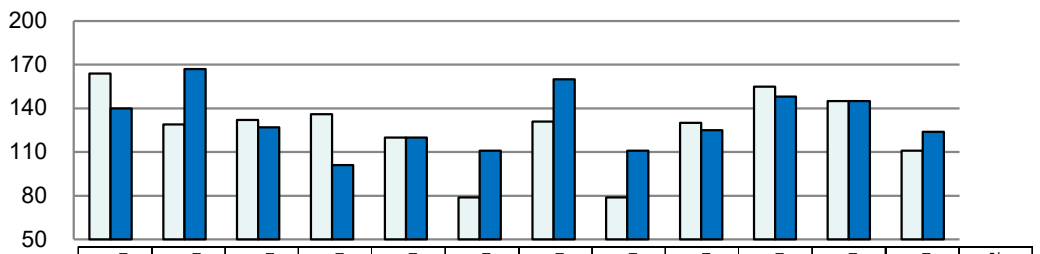
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
R2	947	917	779	958	811	636	768	560	779	914	813	830	9,712
R3	932	854	758	855	722	735	1,001	822	738	920	894	837	10,068

北循環線月別収入額（千円）



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
R2	945	899	816	928	825	690	784	627	782	903	849	865	9,913
R3	923	862	824	881	773	784	997	869	782	917	922	876	10,410

上藻別デマンド線月別収入額（千円）



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
R2	164	129	132	136	120	79	131	79	130	155	145	111	1,511
R3	140	167	127	101	120	111	160	111	125	148	145	124	1,579

5）事業実施の適切性

・計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。

6）目標・効果達成状況

・南循環線目標値 57.3人／日に対し、実績は96.9人／日となり、+39.6人／日と目標値を大きく上回った。令和3年4月以降については、新型コロナウイルス感染症による高校の休校がなく、紋別高等学校生徒の利用数が回復したことによる増加がみられた。また新型コロナウイルスワクチン接種の普及により、一般客の外出も少しづつ戻ってきており、利用者数の回復傾向がみられた。公有民営方式車両購入費国庫補助を活用して導入した車両については、当初予定通り、令和3年11月に車両を取得したが、十分な運行期間を設けることができず、利用者増減などの効果検証をすることができなかった。

・北循環目標値 58.0人／日に対し、実績は98.7人／日となり、+40.7人／日と目標値を大きく上回った。利用者数については、南循環線と同様に、回復傾向がみられた。また、公有民営方式車両購入費国庫補助を活用して導入した車両取得による効果については、南循環線と同様である。

・上藻別デマンド線目標値 6.4人／日に対し、実績は7.1人／日となり、+0.7人／日と目標値を上回った。また、外国人技能実習生に対するバス運賃助成が地域に浸透してきたことにより、外国人の利用者数が増加した。

・商店街連携イベントの目標値と実績値について
　目標値：参加店舗数50店舗、利用券1,500枚、参加者数800人
　実績値：参加店舗数45店舗、利用券476枚、参加者数309人
　新型コロナウイルス感染症の影響により、外出を控える動きがあるため、利用者数が減少した。

・収支の改善を目指し、利用者増加へのソフト事業を行うとともに、効率的で利便性の高い地域内公共交通の確保・維持に努めており、これまでの利用実績は、概ね順調に推移している。

7）事業の今後の改善点

・今後も路線の維持・確保に向け、利用者ニーズを的確に捉え、バス事業者と緊密な連携を図り、必要に応じて路線や時刻表の見直しを行う。

・バスの乗り方教室は、町内会や老人クラブなどへ広く周知を行い、市内で行われる各種イベント等にて積極的に開催することで、身近な公共交通をより多くの市民に周知し、利便性などの理解を図る。

・運転免許証自主返納者に割安の定期券販売や1,200円分のバス券が付与される「乗ろうよバスの会」への初年度入会金を当協議会が負担し入会を促すことで、交通事故の予防を行うとともに新規バス利用者の獲得を図る。

・商店街連携イベント「乗って乗ってキャンペーン」については、中心商店街と連携し、イベントを実施することで、バス利用者を中心商店街へ誘導し、住民の外出機会を作ることで、市内の活性化及びバス利用者の増加を図る。

・新規バス利用者の増加を図るため、上記ソフト事業や利便性向上のためのPRを積極的に行う。

8）地方運輸局における二次評価結果

（令和4年度分と併せて評価）